

区民版世田谷区子ども子育て会議

「子育て支援の新しいかたち～行政にできることNPO・地域にできること～」

平成 26 年 4 月 3 日 18 時 30 分～21 時

キャロットタワー5階セミナー室

参加者 42 名

■ 趣旨説明 (NPO 法人せたがや子育てネット松田妙子)

平成 25 年 12 月 1 日に下北沢で第 1 回目を開催、今回は区の方を交えて、今後の子育て支援の新しい形を考える場としたい。

■ 事例報告 (世田谷区子ども若者部長岡田篤部長)

区のとりのくみや子ども子育て会議の進捗について 9 月からモノづくり学校の中に若者総合支援センター（主に引きこもり）が池尻の世田谷ものづくり学校の施設内に、9 月に開設する予定です。就労につなげたり、医療、発達障害のプログラムにつなげるます。若者支援は 39 歳までで、子供の時代から連続的に豊かな経験をすることが大事で、子どもと親に対する試作を充実させていく

子供計画の進捗状況はあまり進んでいないが、新制度に向けてニーズ調査（小中学校、ひとり親）は終わっている。

今回のような場で、いろいろな人の声を聞きながらキックオフのつもりでやっていきたい。

みなさんから何をしたいのか、お聞きし、10 年を見通したものを作っていきたいと思っている。是非、私にボールを投げてください。

※取材紹介：読売新聞樋口さん

■資料参照しながら説明 (世田谷区子ども若者部長岡田篤部長)

・平成 27 年～10 年間の基本計画

計画の位置づけ 世田谷区基本計画・実施計画、計画の期間について

・子ども・若者施策に 420 億 そのうちの 200 億は保育

保護者の働き方も変わってきて、保育を選ぶ方が増えてきている。人とお金の配分を決定していく

・世田谷は幼稚園を選ぶ人が多かったが、今後保育の方にシフトしていくとみられる。

平成 30 年までに保育の定員を 2 万人に増やしていく。

・在宅の子育てにスポットを当てて取り組んでいくのが世田谷の特徴である。

・配慮を要する子供達、虐待にも力を入れている。

・NPO、地域の団体と力を合わせてやっていきたいところは在宅子育て支援である。

・団体の 10 年前と今とではどうなのか聞かせてもらいたい。

・活動団体が昔から豊富、多彩であることが世田谷の資源である。

・審議会 子ども子育て部会 研究会を開催し、学識からのご意見も聞きながら絞っていききたい。

・行政の責任と役割の転換

サービスの直接の提供者ではなく・・・ 質の向上ができるための仕組みづくりが正念場
保育に関しては需要が増えて施設を増やすが本当に子供達のためかどうか大人が本気で考えていかなくてはならない。どうしたら質の確保ができるのか

・サービス主体の多元化

サービスという言い方がいいかどうかはあるが、地域の方々の力、当事者の参画が大事
企業参入 (質の向上)

・利用者の立場からの支援

問題は複合的に起こっている。包括的にケアできるシステムを作っていく。
継続的で切れ目のない支援

★10年間で考慮すべき動き

- ・子ども・子育て支援制度本格実施
- ・児童相談所の移管

各区におろしてもらおう。権限を持っているのは児相、連携不足のためにお子さんがなくなる事件もあるので・・・。

《スケジュール》

7月には素案として、まとめていきたい。

9月には素案として議会に提出、パブリックコメント募集

今年度中に計画を決めていく

予算は1月につめるので27年度はその時までには決めていく。

■行政紹介

岡田 篤	世田谷区子ども・若者部長
百瀬 秀	子ども家庭課長 (竹中さんの後任 自治体に出て仕事をするのは初めて)
香山桂子	子ども育成推進課長
猪俣和美	子ども育成推進課 計画担当係長
向後雅一	子ども家庭課 子ども・若者係長
真鍋太一	子ども育成推進課 計画担当

為石磨利夫 厚生労働省育成環境課長 地域には支えてくれている人がいる 期待が大きい

竹中大剛 前子ども家庭課から現在厚生労働省の育成環境課課長補佐 (学童・児童館に関わる)

■グループワーク (6グループ)

グループ内でいろんな立場の人と、団体や個人の区内での現状・思っていることを話し合う。

○グループ発表

★グループ1

学童期の問題 居場所づくり 子供がのびのび遊べるば 時間の余裕などあればいいな

集団登校があるといいなという 外国の方の増加

解決策 情報をどういうふうに伝えることができるか

出産前に伝えられたらいいのでは 朝のわんわんパトロール
周りの人が子どもに関わってもらえるきっかけを作る。多世代で子育て

学校。若者の居場所

若者の問題って乳幼児の育ちをしっかりとすると解決するのでは。

★グループ2

障害児の話や保育の問題について

そもそも根底の問題は「ありのまま生きられない社会」が問題

解決するためには・・・

世田谷ならではの制度に落とし込んでほしい

昼間の人とつながれない、多世代が集まる小さな公園のコミュニティーで場づくりをする

ルールは行政、活用は地域で担う

敷居の低い、あらたな公園管理のあり方を提案

★グループ3

待機児童解消について

地域の中で課題は「子供の遊び場がない」「シニアの方ができるところがあるのでは」

待機児童解消にばかりお金つかっていいのか

いろんな問題をどこに相談したらいいのか分からない

コーディネータースキルのある人が地域にいることが大事

人と人をつなげる仕組みづくりが地域という小さい単位であれば良い

★グループ4

そもそも「どういう状態が子育てにとっていいのか」の議論が大事

枠を超えた「市民力」を使ってみる

どうやったら今の現状を当てはめることができるのか・・・

産前から「小さなコミュニティー」を活かして 学校や幼稚園、保育園の園庭や校内・園内等開放して高齢者の見守りなども兼ねて使えるのでは。

★グループ5

制度でなんとかならぬのか⇒なんとかならない

人任せにしないで自分で動かないといけない

やれることは変わってくるのが自分でやってみる それぞれで動いてみるのが大事

■終わりに (NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事 松田妙子)

次回・・・

- どんな人を呼んだらいいか
- 組織で呼ぶと面倒なので、私たちが呼ぶのがいいのではないか→誰を呼ぶか？
- 子供のことをみんなで考える場としたいと思っている
- 開催のための会場の情報をください

●会場からの意見

- 当事者に聞かせたい
- 記録映画をつくってはどうか？

その後懇親会 参加者 23 名

■ グループワーク まとめ

テーマ	意見
コミュニティづくり	規定・ルールをこえられる人間関係
	小さい公園をコミュニティづくりに利用。公園管理協定。←保育園も参加
	伝統行事への参加。例にもちつき
	外国人の親とのコミュニケーション
	町会行事への子ども若者の参加のうながし
	ずっとつながっていられる仕組み
	みんなで集えるところ足りない
	人まかせにしない
	学校の統廃合で使わなくなる校舎を保育園にしたらいいのに・・・
居場所	小児科が親の井戸端会議場
	若者の集える場づくり
	小 5・6～中学生の子どものシェルターがほしい
	思春期の青少年が人目を気にせず集える場がない
	外で子どもが遊んでない。人が集まるところは大勢
	居場所。子どもがいそがしくヒマな時間ない
	0才～高齢者までが集う工夫
	不登校の子どもの居場所がもっと必
	公的資源の活用
	10代半ばの子どもの通学できる自立援助ホームがほしい
	中高生の夜の(昼も)居場所がない。お金がないと場所がない
	学童・児童館は小学生の居場所として機能し続けられる？
教育	お金がなくても教育が受けられる
	教育格差がある
	親の教育
	両親学級、土日の枠
	学べる場所があったらいいな
	教育費ただ
区に対して	年齢・障がいの有無などなど同じものでわけすぎ？！
	制度に合わせた人生設計なんて！！
	親のケア。産まれる前からの。区部署をまたいだとりくみ必要
	教育と福祉が横つながりになるとよい

	学校がどこ・何とつながると good ?
	学校と子育て行政がリンクしづらい
	時々、行政の中が見えにくい。教委とか
	養育困難家庭への支援。
	文化にお金を払え
	0才～すき間のないサービス。特に中高生焦点
	子どもが「へる」のは本当？「ふえる」予測は必要ない？
	子育て支援のセーフティネットの充実
	本当の安心、安全とは？を考えられる計画
	「子どもが育つことに喜びを感じる社会」世田谷区はどう考えてる？
サービスの質	保育がサービス？？ってどうよ！
	サービスの質。質とは？？それぞれの価値があるよね～～～
	サービスの質の確保
子どもの育ち	生きる力は育てるもんじゃない。奪ってるのは誰だ！
	安心 安全と生きる力の育みってバランス難しい！
	自己肯定感が低い子が多い。
	いろいろな大人とのかかわり
	子どもは社会で育てる
	子どもへの食の提供あるがあるといい
	「子どもが育つことに喜びを感じる」子どもが主体。そこに足場をおいて考えてほしい
	みえない大事なものの価値
	中・高・大学生の時に赤ちゃんにふれることができる
	「屋外」への視点。体験、生きる力、自立、居場所・一母にとってもよい
	世田谷の良い子育て環境を新制度になって守れるの？
	多様性を認める
	子ども本位
	認めあえる関係
	子ども～青年までのたてのつながりをつくる
若者が力を発揮したくない現状があるよね	
じぶんがしたいことをキャッチする力(大人も子どもも)	
障害児	発達障害とわからず見おとされていく子が心配！声をかけていければわかるのに・・・
	発達障がいの子どもの居場所が少ない
	療育の拡充
	障害児のケア
情報	妊婦時代からサービスを知らせる
	両親学級で保育(あずかり)の情報を伝える
	出産前に保育の事を伝える(前保育園)
人材育成等	保育士の給料をもっとUPしてほしい！
	専門人材の育成
	民間の子育て支援団体の職員の給料の低さ

	民間の専門性高い人材への予算確保
多世代の子育て	同世代同士で遊ばせてばかりいる。本当は多世代がいいのに
	多世代育児
	子どもが自由に走りまわり、じいちゃんばあちゃんが見守る場所があったら面白い
	年配の人が子育ての場に関わる
	多世代が交わる機会がある事
	異年齢交流の仕かけ
	高校の中に幼稚園とか保育園がある
地域力・市民力	地域の輪
	昼間、地元にいる人が力を発揮できる、したい
	子どもの施設と近所の方と、どのようにうまくやれるか
	商店を盛り上げる子ども・若者の誕生
	世田谷は市民力が高い
	PTA、市民活動の人たちが顔見知り、仲良し
	若者～高齢者、様々な枠を超えた市民力を使ったところ&相互扶助
	いろいろ良きことをしている団体はあるが、つながる仕組みが足りない
	支えあい
	地域、民間事業者との協働
保育	誰でも希望すれば保育園に入れる
	マイ保育園制度を入れて！全員保育園にアクセス
	土日や24時間対応の保育園の必要性
子育て	なかなか外に出てこない出産後の母子の掘り起こし
	出産したくなる環境、子育てのしやすさがほしい
	つながるきっかけをつかえない人。どうつなげていくか
	相談できない新ママがまだまだたくさん
	親の属性の変化
	出れない人が外に出ていくきっかけづくり
	今、ここで話している様なことを話せる母親、父親たちは少ない、忙しすぎて
	ショートステイの需要
遊び	外遊び機会が少なく(制限された中で)体が動かない。すぐケガする
	若者が児童館で子どもと遊ぶ
	自由に野球ができる公園が少ない
	子どもが外で自由に遊べる
	毎日遊び場を開園できるようになるといいな(砧)
	子どもがのびのび遊べる場所
	あそべる場所が少ない
	管理されすぎ
	BOP 以外での自由な遊びの時間
	もっともっと小さい子ども大きい子ども遊びに行きたくなる公園がほしい！
	公園で遊ぶ親子が少ない。公園に行ってもダレもない。楽しくない by 母

